

〔別記様式第 13 号〕

岡山・玉野圏域(岡山県) 総合水産基盤整備事業計画

1 圏域の概要

(1) 水産業の概要

① 圏域内に位置する市町村および漁業協同組合の概要

岡山・玉野圏域は、岡山市と玉野市の 2 市からなる圏域であり、漁船漁業やノリ養殖業等の漁業が営まれている。各市とも水産業は主要産業の一つであり、岡山市では市総合計画において「多彩で活力ある農林水産業の振興」として、また、玉野市では市総合計画において「活気ある生き生きとしたまち」として水産業の振興を図ることとしている。

関係漁業協同組合は平成 15 年度には 14 漁協あったが、合併を経て、現在は、朝日漁協、九幡漁協、岡山市漁協、小串漁協、胸上漁協、たまの漁協の 6 漁協となった。

② 主要漁業種類、主要魚種の生産量、資源量の状況

岡山・玉野圏域は、県内で最もノリ養殖業が盛んであり、県下のノリ養殖生産量の約 6 割が当圏域で生産されている。ノリ養殖生産量については、平成 26 年度は 4,569 t であったが、平成 30 年度は 4,467 t となっている。養殖海域の栄養塩減少や海水温の変化による生産量の減少や品質低下が問題となっている（農林水産統計）。

漁船漁業では、小型機船底びき網漁業や刺網漁業が行われており、サワラやマナガツオ、ゲタ、ガラエビ等の多種多様な魚種が漁獲されている。生産量については、漁船漁業の生産量が平成 26 年度は 523 t であったが、平成 30 年度は 402 t と減少傾向である（農林水産統計）。

資源管理は、小型機船底びき網漁業や小型定置網漁業で自主的な網目の制限や小型魚再放流サイズの設定等に取り組んでいる。また、漁獲された抱卵ガザミの再放流や、サワラの受精卵放流、ガザミ、ヨシエビ等の種苗放流等、様々な活動に取り組んでいる。

③ 水産物の流通・加工の状況

養殖ノリについては、各漁港や港湾にある加工場で裁断、乾燥等を行い乾ノリとして製品化され、陸路で圏域内にある岡山県漁業協同組合連合会（以下「県漁連」という。）に集約される。集約されたノリは、定期的に開催される入札を経て、県内外に流通している。

鮮魚については、陸揚げされた魚介類は陸路で、圏域内にある中央卸売市場や玉野中央魚市場に運搬され、県内外に流通している。また、中央卸売市場は、地先で水揚げされた漁獲物はもとより、他県や海外からの水産物を取り扱われており、県内の主たる水産物流通拠点としての機能を発揮している。一方、玉野魚市場は主に地先で水揚げされた漁獲物を取り扱っており、地域に根差した産地市場となっている。

④ 養殖業の状況

岡山・玉野圏域では、犬島周辺海域や児島湾口部を漁場としてノリ養殖業が盛んに行われており、本圏域のノリ養殖生産量は県全体の約 6 割を占め、生産額は県全体の約 7

割を占めている（令和２年度県調べ）。

養殖ノリは水揚げ後、各加工場で乾ノリに加工することから、製造工程から出荷に至るまでの衛生管理を徹底するため、漁期前に県漁連と県が各加工場の点検を実施している。乾ノリに加工されたノリは、圏域内の県漁連に集約された後、入札にかけ値段を決定し、県内外に出荷される。

⑤ 漁業経営体、漁業就業者（組合員等）の状況

圏域内の漁業就業者数は、平成 30 年度漁業センサスでは 304 人、経営体数は 166 経営体となっている。近年、漁業就業者数及び経営体数は、減少傾向であり、今後もその傾向が続くことが予想される。

⑥ 水産業の発展のための取組

水産物の地産地消推進のため、岡山市産の魚介類を販売するイベントである「とれたて岡山魚フェスタ」を毎年開催している。県内最大のノリ生産地という認知度向上のため「とれたて岡山魚フェスタ」や「地産地消マルシェ」等のイベントを利用し積極的に P R を実施しているほか、市内小中学校の給食への岡山東産味付けノリの提供を行っている。また、神経絞めを行うことで魚類の付加価値向上や、ノリ養殖では加工場の集約による協業化に取り組んでいる。

⑦ 水産基盤整備に関する課題

漁港施設の老朽化が進行し機能低下が懸念されており、継続的な機能確保と、増大する対策コストの縮減および平準化が課題である。

⑧ 将来的な漁港機能の集約化

本圏域は、本県の主要水産物であるノリの重要な生産拠点となっていることから、現状の機能を維持していく。

(2) 圏域設定の考え方		
① 圏域タイプ	養殖・採貝藻型	設定理由；ノリ養殖漁業が圏域内の主要漁業である。
② 圏域範囲	養殖・採貝藻型	設定理由；設定した圏域内で、ノリ養殖業の生産量が県下の約 6 割を占めている
③ 流通拠点漁港	—	設定理由；
④ 生産拠点漁港	朝日	設定理由； 朝日：2 種漁港であるが、圏域内で中核的な役割を担っている。災害時には漁港利用者の避難路や避難場所が確保されており避難対策が確立されている。 漁業者は今後も漁業を継続していく意向が強いことから、生産拠点に位置づけ、今後も漁港を整備・維持していく必要がある。
⑤ 輸出拠点漁港	—	設定理由；

(令和元年)

圏域の属地陸揚量(トン)	1,419	圏域の登録漁船隻数(隻)	159
圏域の総漁港数	6	圏域内での輸出取扱量(トン)	—
圏域で水産物の水揚実績がある港湾数	3		

当該圏域を含む養殖生産拠点地域名	岡山県
対象魚種	ノリ類
魚種別生産量(トン)	5,705(トン)
魚種別海面養殖業産出額(百万円)	1,882(百万円)

2 圏域における水産基盤整備の基本方針

(1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

① 拠点漁港等の生産・流通機能の強化

—

②養殖生産拠点の形成

—

(2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

①環境変化に適応した漁場生産力の強化

高水温の影響により、ノリ養殖では養殖開始時期が従来から変化しつつあることや、漁船漁業では漁期が従来から変化しつつあることから、海域環境のモニタリングを強化する必要がある。

②災害リスクへの対応力強化

老朽化した漁港施設に対して、機能保全計画に基づく予防保全型の対策を行うことで、施設の長寿命化とライフサイクルコストの削減を図る。また、気象条件の変化に対応した高潮対策事業を推進する。

(3) 「^{うみぎょう}海業」振興と多様な人材の活躍による漁村の魅力と所得の向上

①「^{うみぎょう}海業」による漁村の活性化

漁業従事者の減少に伴い、未利用となる漁港用地が増加することが予想されるため、民間の参入も含めて漁港活用の促進を検討する。

②地域の水産業を支える多様な人材の活躍

多様な年代の漁業者が安全に操業できるよう就労環境の改善のため、老朽化で機能の低下した浮桟橋等の係留施設等の補修・改修を行っていく。

3 目標達成のための具体的な施策

(1) 産地の生産力強化と輸出促進による水産業の成長産業化

①流通拠点漁港等の生産・流通機能の強化

地区名	主要対策	事業名	漁港・港湾名	種別	流通拠点
—	—	—	—	—	—

②養殖生産拠点の形成

地区名	主要対策	事業名	漁港・漁場名	種別	流通拠点
—	—	—	—	—	—

(2) 海洋環境の変化や災害リスクへの対応力強化による持続可能な漁業生産の確保

①環境変化に適応した漁場生産力の強化

地区名	主要対策	事業名
—	—	—

②災害リスクへの対応力強化

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
朝日	予防保全	水産基盤整備事業	朝日	2	—

- ・ 朝日漁港において、老朽化した防波堤等の漁港施設に対して、機能保全計画に基づく予防保全型の対策を行うことで、施設の長寿命化とライフサイクルコストの削減を図る。

(3) 「^{うみぎょう}海業」振興と多様な人材の活躍による漁村の魅力と所得の向上

①「^{うみぎょう}海業」による漁村の活性化

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
—	—	—	—	—	—

②地域の水産業を支える多様な人材の活躍

地区名	主要対策	事業名	漁港名	種別	流通拠点
朝日	就労環境	水産基盤整備事業	朝日	2	—

- ・ 朝日漁港において、老朽化した防波堤等の漁港施設に対して、機能保全計画に基づく予防保全型の対策を行うことで、施設の長寿命化とライフサイクルコストの削減を図る。

4 環境への配慮事項

本圏域は、瀬戸内海国立公園内に位置することから、特に周辺環境の保全・調和が必要となっている。事業実施にあたっては、周辺の景観や生活環境等に十分配慮することとする。

5 水産物流通圏域図

別添のとおり